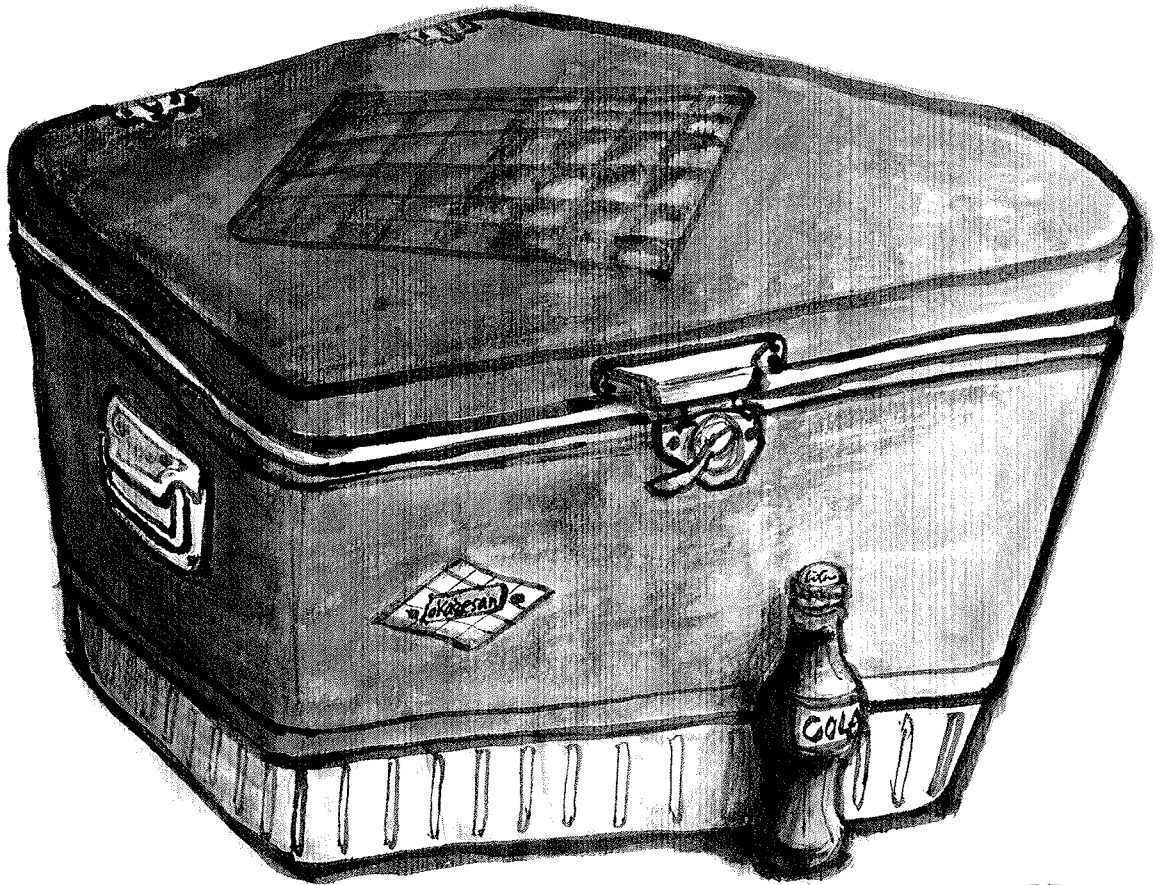


おかげさん

99号

真宗大谷派
高德寺通信
2022年夏号



四門出遊

しもん しめつ ゆう
とうのお話

お釋迦さまはインドのシヤカ族の王子
さまで名をゴータマシッダールタと言いま
した。お母さんはシッダールタを産んで早くに
亡くなられました。シッダールタはアシタ仏
人という人物から「王子は偉人の三十二相を
お持ちだ。王になれば全世界を征服する
王に、出家すればブツダ(自覚めた人)にな
るでしょう」という予言を受けていました。
それを聞いた王(父)は喜んだ半面、シッダ
ールタが出家してしまうのでは…と不安を
感じ、王子が出家してしまわないように宮
殿から外に出ることを禁じて、贅沢三昧
に、過保護に育てていきました。王子はどん
な生活に飽きてしまい、ある日従者を連
れてこっそりと城の外に出てみたのです。最
初は城の東門から出ました。するとそこには

は、歯が抜けて腰の曲がった老人がおりました。「お
あれは何者だ?」「はい、あれは老人です。人として生ま
れた者は年を重ねると皆ありような老人になります。
「私も老人になるのか?」「はい、従者から人は誰で
も衰えて老人になることを告げられ、自分の若さ
が永遠に続くものではなく、やがて老い衰えていく
ものであることを自覚したシッダールタは大変シヨ
ックを受けました。又ある日従者とともに南の
門を出ました。するとそこには具合の悪そうな
病人が臥せておりました。「あれは何者だ?」「は
い、あれは病人です。人は誰でも病に罹るとああ
なります。今は健康で元氣でもいずれ病に冒
されて苦しむ時が来る…自分も病む事実を
知ったシッダールタはまたしてもシヨックを受けて
城へ戻りました。そしてまたある日、こんどは西の
門を出てみたところ、死者を送る葬列に出く
わしました。悲しんで泣きながら歩く人々と、もはや
起き上がることもない死者の姿を目の当たりにし
たシッダールタは、生まれた者は誰でもいつか必ず
死ぬという不変の真理を突きつけられたのです。
「私もしかあのようになるのか?」「避けて通る
ことは出来ないのか?」「この苦しめからは逃がれ
ることは出来ないのか?」「不変の真理「老」

「病」「死」を目の当りにして、いろいろな問いが湧いてきました。そしてある日、北の門を出てみると、向こうから大変質素な身なりなれど、凛とした穏やかな表情をされた修行者がやってきました。その姿を見てニッダールタは驚きます。なぜこの人は老病死の苦悩に満ちた人生をこんなにも安らかに生きることが出来るのだろうか？自分もこの人と同じ道を歩んでみたい…。この日からニッダールタは次第に出家への願望を抱くようになっていったのでした。そして29歳の時に妃のヤシヨーダラと息子のラーフラを城にのこして出家されたのでした…。

仏説無量寿經（大無量壽經）には

「見老病死、悟世非常。」

棄國財位、入山學道。

● 老病死を見て世の非常を悟る。

● 国の財位を棄てて山に入りて

道を学ばしたまう。（真宗聖典 P.3 L.4）

と記されています。お釋迦さまにとつて「老」「病」「死」が避けては通れない身の事実として、初めて自分、問題となった時に、人生の意味を尋ね求めていく歩み（求道）が始まるのだということと、この四門出遊の物語は伝えられているのだと思っています。

ところが現代では、アンチエイジング（抗加齢・抗老化）すなわち、いつまでも若々しい心と体を維持したい、実際の年齢よりも若く見られたい、出来るだけ長生きしたい…という思考が流行り、テレビのCMのほとんどは健康や美容に関するもので、「健康のためなら死んでもいい」という笑話も耳にします。そうすると、老をキライ、病を恐れ、死を見ないような方向に舵を切って行くのではないのでしょうか…？

現時点での若さは常に非ず、健康も常に非ず、生もまた常に非ずです。老・病・死の道理を生きた私たちの身の事実（常に非ず）というところに目覚めて、今を生きて、一瞬たりとも同じ、ということがない、非常な身が、今ここに生きてある…そのことに目覚めてほしいという願いのほど、うぎを、南無阿彌陀佛といただいております。

釋了吾の 八女日記

その8

NO WAR!

東京より(若干)涼しい九州より、皆様こんにちは。今年も田んぼに水が入り、カエルの大合唱で寝れない毎日を過ごしております。いかにお過ごしでしょうか。東京で暮らしていた頃は、漠然と「九州はあついで地域なんだろうなあ」と考えておりましたが、梅雨様がどくぬへ行ってしまうけれど、今日この頃では、むしろ八女の方が気温が低く大変驚いております。筆を執っている6月28日現在は、初めての電力需給逼迫注意報が関東に出されて、節電の呼びかけが為されています。果たしてこの原稿が皆様のもとに届く頃には、最高気温は何度にならうのか…。しかも梅雨が明けてしま

ました。なんだか末恐ろしい心地がいたします。地球温暖化の影響なのでしょうか？ 節電も大事ですが、まずは熱中症などになりぬよう、クーラーは我慢しすぎず、使わずで乗り超えたいと思います。

さて、前回の八女日記では2月22日(開戦2日前)の原稿で、ウクライナ危機がどうなるのか懸念しているところを書かせてもらいましたが、それから4ヶ月が経ち、戦争は5ヶ月目に入りました。核兵器を持つ大国が、核の恫喝のもと武力侵攻をする。今でも信じられません。たくさんの非劇があり、目を覆うような惨状がインターネットやテレビで伝えられましたね。今もウクライナの frontline では毎日何百の西軍兵士が戦闘によって足を、手を、心を、命を、将来を失っています。また、都市部には巡航ミサイルが爆んで来て、なぜか一般の高層住宅を破壊し、着弾の一秒前まで日常の営みをしていただけの無辜の民を殺戮しています。まさに地獄です。その攻勢を指示する指導者は、クレムリンの中で快適な暮らしをしているわけです。怒りがこみ上げてきます。「戦争をやめろ」といくら言ったところで

やめさせるだけの力を持たないものは一方的にやられるだけという凄惨な現実から、我々はどこか逃避したくなることがあるのでしようか。近頃では、新聞やテレビで戦争が取り上げられる時間も減り、「ウクライナ疲れ」「ゼレンスキー疲れ」などの用語が散見されることもあります。人間は飽きる生き物ですが飽きている場合ではないことがあると思っております。私を含め、人間は嫌な現実にも慣れ、飽きてほかの身近な問題に目を向ける。ともすれば、弱いものを叩くのも人間の性でしようか。暴力を終わらせるために降伏したらいいなどと言われる方もいます。一つの哲学かもしれませんが、ブチヤでの虐殺を思い起こすと暴力は終わらなないのでしよう。安易な「うちもどっち論」に逃げていかなないように、しっかりと戦争の発端と行く末を見届けていかねばならない。そして記憶し忘れないことが大切だと思っております。ある時出遇った言葉です。「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」この言葉は「法句経」という經典にある。お釈迦様の言葉だそうです。すべての者は根源的に自ら

受ける暴力や死を忌避する。そのことは、自らを守るためという他者へ暴力と死を振りまくことと一体なのかもしれない。しかし、「己が身をひきくらべて」とあります。暴力を受け、死を強いられる相手の状況に自分の身を置いてみたとき、果たして同じことが出来るのか。暴力を受ける側に立って考え、殺してはならないし、殺させてはならないという思いに至りなさいという、お釈迦様からの呼びかけの言葉です。戦争、疫病、あらゆることに「己が身にひきくらべて」相手の気持ちになって考えるという精神が昔も今も変わらなずに必要とされているのでしよう。私にとりては、難しい……相手の立場、気持ちになって考えられるようになりたいものです。

最近、スーパーで買いたいものをしていけると、本当にモノの値段が上がったなど実感します。野菜も旬のもの以外はあまり買わなくなりました。輸入品も輸送コストや円安などの要因でどんどん値上げされていくのでしよう。平成生まれの私は、今まで多くの幸せな縁で、おいしいものが安く手に入る時代を生きていたのですが、これからの時代はそうではないかも知れないと、少し恐ろしく思いつながり日々暮らしています。皆さんはどうでしょうか。不安とともに生きるしかない我々を、いつの時代も仏様は見守っていてくださるそうです。平和を願います。南無阿彌陀佛。(つづく)

GOENZ

ゴ-エズ (住職がバスマスのバンド)

7/24(日)に予定して
おりました、チャリティー
ライブ・パーティーは

大変
残念ではありますが
今年も

中止

とさせていただきます。
来年は復活したいと
思っております!!

ご案内

親鸞^{しんらん}聖人^{しょうにん}御誕生^{ごたんじやう}850年・立教開宗^{りきぎやうかいしやう}800年 慶讃^{きやうざん}法要^{ほうやう}
が来年、2023年の春に京都の東本願寺^{とうほんがんじ}で勤^{つと}まります。
高德寺が所属しております。東京五組^{とうきやうごぐみ}では、団体での
参拝を企画いたしております。7月のお盆過ぎ^{おぼんすぎ}くらいから、募集を開始いたします。ご興味のある方は、住職
までご連絡(お問い合わせ)ください。

◆2023年4月21日(金)~23日(日) ※東京五組としては4/21・22ですが
高德寺ではプラス1日→2泊3日を企画しています。住職がお連れします!

お磨き

2022. 3/13

御礼

新井 和子さん
 新井 由真さん
 石井 玉枝さん
 清水 和美さん
 菅原 千穂子さん
 塚田 和子さん

塚田 太郎さん
 仁野平 延芳さん
 寛谷 恵美子さん
 水越 拓路さん
 水越 和子さん
 柳澤 佐智子さん

すて川順
あ
お
さ
ご
う
ご
あ

有り難うございました♪

いつも仏具がピカピカなのは、ご奉仕のたまものです。

応援していただき誠に有難く存じます

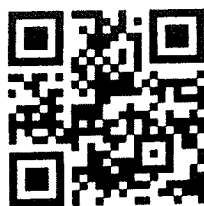
Kanpa Onrei

神野 くらう さん
 磯村 貴美子 さん
 朝 富士子 さん
 金山 徳喜 さん
 鈴木 新一 さん
 江守 敏雄 さん

いたいた川順です

- ◎行事の開催や中止等。
お知らせ
- ◎寺の歴史やアクセス
- ◎「おかげさん」のバックタイ
や法話の動画等が
観れます!

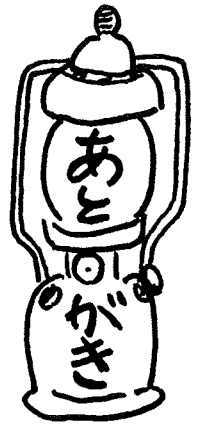
* QRコードを読みとって検索
「高德寺」で検索してください。



高德寺ホームページ

をご覧ください

(7) ↑ 高德寺のQRコード

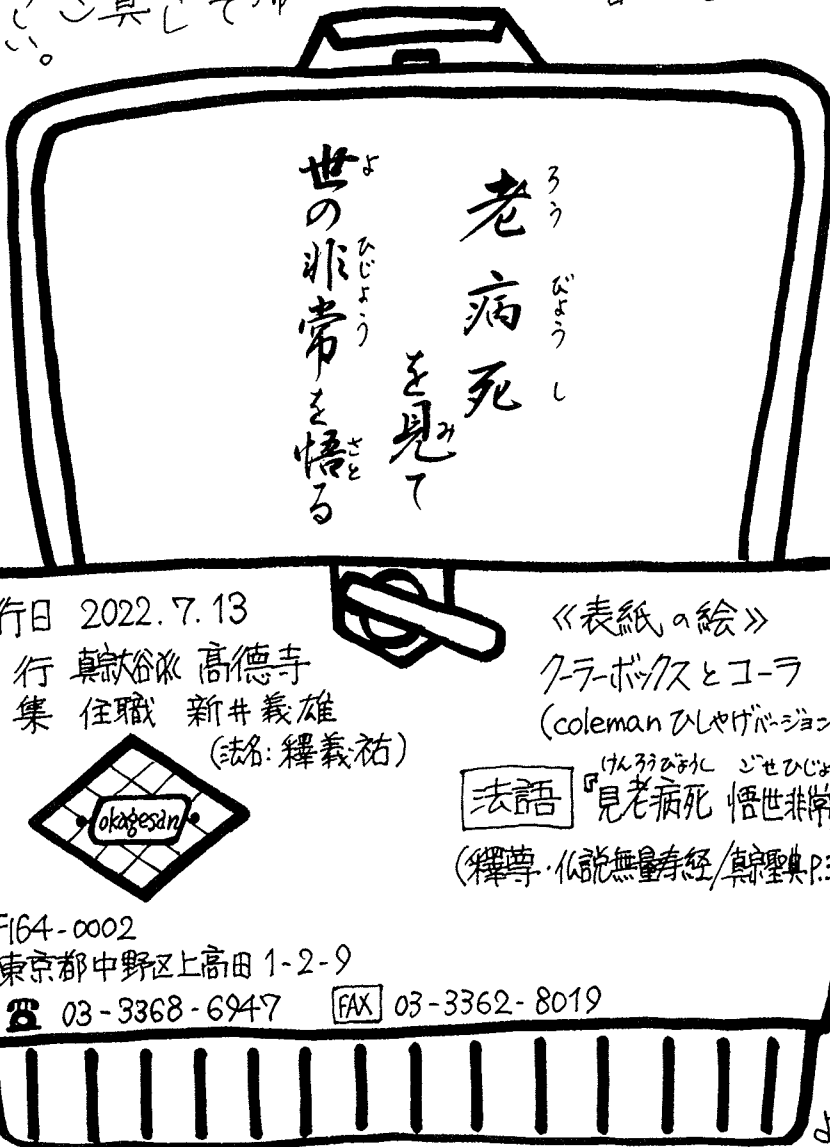


第2次キャンプブームと呼ばれる
ている昨今。コロナ禍で密を
避け、自然の中で思い思いに
過ごせるといふ点が人口を増
やしているのかもしれない。

私もキャンプは好きで、小
い頃から慣れ親しんで(連
れて行くものも)いる。今も
たまにキャンプに出かけている。

キャンプ場で気になるのが、マ
ナーの問題である。現状復帰
しない人や、焚き逃げと言っ
て火がくすぶった状態に帰って
しまう人、(均とか)買った道具
を全てそのまま置いて(捨てて)
逃げちゃったりする人がいるらしい。

(信じられない!!)楽しむのは良いけれど、自然に対してや次に使う
人のことを考えてもらいたい! 来た時以上に綺麗にするのが当たり前
だと思ってるのは少数なのか? と思ってしまう今日この頃である。



ろう びょうし
老病死

をみて

よ びじょう
世の非常を悟る

《表紙の絵》

クーボックスとユラ
(coleman びしゃげバージョン)

法語 『けんろびじょう じせびじょう
見老病死 悟世非常』

(釋尊・仏説無量壽經/真聖典P.3)

発行日 2022.7.13

発行 真嶽谷 高德寺
編集 任職 新井義雄
(法名: 釋義祐)



〒164-0002

東京都中野区上高田 1-2-9

☎ 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

釋義祐
様